

## タイムライン

1. 古代ギリシャ:プラトン: 国家論において、民主制を否定し、ポリスのための生活、消費欲・財産欲の禁止、貨幣使用の禁止、人口規制などを理想国家の要素として提唱。これはペロポネソス戦争後のアテネにおける商品経済浸透と格差拡大への反応とされる。
2. アリストテレス: 財産共有制を批判し、商品の売買は容認するが、金儲けのための交換（クレマティスティケ）を批判。
3. 中世:トマス・アクィナス: 私有財産を肯定するが、困窮者の財産請求権（緊急権）を例外的に認める。
4. 16世紀後半～18世紀半ば:重商主義学説の興隆: トーマス・マン、ウィリアム・ペティ、バーナード・デ・マンデヴィル、ダニエル・デフォー、デイヴィッド・ヒュームらによる経済研究が行われる。欧州列強の海外植民地獲得と貿易発展が背景。
5. 18世紀半ば～後半:重農主義学説の登場: フランスで重商主義への批判として登場。政府の介入なしでも経済は自律的に動くと主張。
6. 1758年: フランソワ・ケネーが『経済表』を執筆。国民経済の再生産システムを解明し、経済学体系化の端緒となる。
7. 1767年: ジェームズ・ステュアートが著書『政治経済学原理の研究』で初めて「ポリティカル・エコノミー（経済学）」という表題を使用し、経済学を「全住民のために生活資料の一定のファンドを確保すること」などと定義。
8. 1776年: アダム・スミスが『国富論』を発表。資本主義工場生産について論じ、現在の理論化された経済学の直系で最古の理論とされる。「経済学の父」と呼ばれる。政治経済学を「国民の富の性質と動機の研究」などと定義。
9. 18世紀末～19世紀前半:古典派経済学の基礎構築: デイヴィッド・リカード（『経済学および課税の原理』1817年）、トマス・ロバート・マルサス（『人口論』1798年、『経済学原理』1820年）、J.S.ミル（『政治経済学原理』1848年）らによって英国古典派経済学が形成される。
10. 1803年: ジャン＝バティスト・セイが経済学を「富の生産、分配、および消費の科学」と定義。
11. 1844年: ジョン・スチュアート・ミルが富の生産のための人間の共同作業から生じる社会現象の法則を追跡する科学として経済学を定義。
12. 1849年: トーマス・カーライルが古典派経済学を「陰気な科学」と風刺（マルサスの悲観的分析に対して）。
13. 19世紀後半:マルクス経済学の体系化: カール・マルクスがイギリス古典派経済学を研究し、労働価値説を継承・体系化。剰余価値論などに基づき資本主義経済の構造と運動法則の解明を行う。主著『資本論』を執筆（1867年）。
14. 新古典派経済学の発展: 資本主義経済現象の数理的分析が進展。ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ、レオン・ワルラス、カール・メンガー、アルフレッド・マーシャルらによって発展。
15. 1890年: アルフレッド・マーシャルが主著『経済学原理』を出版。political economyに代わりeconomicsという語彙を普及させ、「生活上の通常の仕事における人間の研究」などと経済学を定義。
16. 20世紀前半:1932年: ライオネル・ロビンズが経済学を「他の用途を持つ希少性ある経済資源と目的について人間の行動を研究する科学」と定義。
17. 1936年: ジョン・メイナード・ケインズが『雇用・利子および貨幣の一般理論』を出版。市場に任せただけでは失業が発生するため、政府介入による有効需要創出の必要性を主張。マクロ経済学の主流となる。

18. 20世紀中盤:ネオ・ケインジアン経済学の発展: ジョン・ヒックスやポール・サミュエルソンらによってケインズ経済学が発展。
19. 1955年: ポール・サミュエルソンが著書『経済学』で新古典派総合を提唱。
20. 1970年代:スタグフレーションの発生: 先進資本主義国で発生し、ケインズ経済学の影響力が低下。
21. 新しい古典派経済学の台頭: ロバート・ルーカスが合理的期待形成仮説を発表。ルーカス批判を行い、エドワード・プレスコットらとともにリアルビジネスサイクル理論などを提唱。これがマクロ経済学の主流となる。
22. 1980年代以降:ニュー・ケインジアンの台頭: 市場の失敗要因を重視し、これを是正するマクロ政策を再構築しようとするグレゴリー・マンキューやデビッド・ローマーが登場。
23. ソビエト連邦の崩壊・冷戦終了: 計画経済の失敗が明らかになり、古典的マルクス経済学への否定的研究が増加。主流派経済学が経済研究の中心となる。
24. ゲーム理論の積極的な導入: 市場の寡占状態などにおける経済主体間の相互依存分析の道具として普及。
25. 行動経済学 of 発展: ダニエル・カーネマン、エイモス・トベルスキー、バーノン・スミスらによって発展。合理的でない経済主体の意思決定を定式化する分野として主流派経済学で広く受け入れられる。
26. 進化経済学 of 興隆: 新しい異端派経済学として注目される。
27. 現代の経済学 of 定義の多様化: ジョセフ・E・スティグリッツやロジャー・マイヤーソンらが、トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配などを手がかりとしたり、社会的な制度における個人のインセンティブ分析として経済学を定義するなど、その対象が拡大。ゲーリー・ベッカーは行動、安定した選好、市場の均衡の最大化という仮定を組み合わせたアプローチを説明。ハジュン・チャンは、方法論や理論的アプローチではなく、調査対象の観点から定義されるべきだと指摘。

#### キャスト

1. プラトン (Plato): 古代ギリシャの哲学者。理想国家論において、厳格な身分制と経済規制を提唱した。
2. アリストテレス (Aristotle): 古代ギリシャの哲学者。財産共有制を批判したが、金儲けのための交換 (クレマティスティケ) には批判的だった。
3. トマス・アクィナス (Thomas Aquinas): 中世の神学者・哲学者。私有財産を肯定したが、困窮者の緊急権を認めた。
4. トーマス・マン (Thomas Mun): 16世紀末～17世紀前半のイギリスの重商主義者。『外国貿易によるイングランドの財宝』の著者。
5. ウィリアム・ペティ (William Petty): 17世紀のイギリスの重商主義者。『租税貢納論』の著者。
6. バーナード・デ・マンデヴィル (Bernard de Mandeville): 17世紀後半～18世紀前半のオランダ生まれのイギリスの哲学者、風刺作家。重商主義者。『蜂の寓話』の著者。
7. ダニエル・デフォー (Daniel Defoe): 17世紀後半～18世紀前半のイギリスの小説家、ジャーナリスト。重商主義者。『イギリス経済の構図』の著者。
8. デイヴィッド・ヒューム (David Hume): 18世紀のスコットランドの哲学者、歴史家。重商主義に関する論考も行った。『政治論集』など。
9. ジェームズ・ステュアート (James Steuart): 18世紀のスコットランドの経済学者。重商主義者。『政治経済学原理の研究』で初めて「ポリティカル・エコノミー」という言葉を表題に用いた。
10. フランソワ・ケネー (François Quesnay): 18世紀のフランスの医師、経済学者。重農主義の創始者。『経済表』を執筆。

11. アダム・スミス (Adam Smith): 18世紀のスコットランドの哲学者、経済学者。『国富論』の著者であり、「経済学の父」と呼ばれる。古典派経済学の基礎を築いた。
12. デイヴィッド・リカード (David Ricardo): 18世紀後半～19世紀前半のイギリスの経済学者。古典派経済学の重要人物。『経済学および課税の原理』の著者。
13. トマス・ロバート・マルサス (Thomas Robert Malthus): 18世紀後半～19世紀前半のイギリスの経済学者。古典派経済学の重要人物。『人口論』の著者。
14. ジョン・スチュアート・ミル (John Stuart Mill): 19世紀のイギリスの哲学者、経済学者。古典派経済学の重要人物。『政治経済学原理』の著者。
15. ジャン＝バティスト・セイ (Jean-Baptiste Say): 19世紀のフランスの経済学者。セイの法則で知られる。経済学を富の科学と定義した。
16. トーマス・カーライル (Thomas Carlyle): 19世紀のスコットランドの評論家、歴史家。古典派経済学を「陰気な科学」と呼んだ。
17. カール・マルクス (Karl Marx): 19世紀のドイツの哲学者、経済学者、社会学者、革命家。マルクス経済学の創始者。『資本論』の著者。
18. フリードリヒ・エンゲルス (Friedrich Engels): 19世紀のドイツの思想家。カール・マルクスの協力者であり盟友。経済学の定義について述べた。
19. カール・カウツキー (Karl Kautsky): 19世紀後半～20世紀前半のチェコ生まれのドイツの社会主義理論家。マルクス経済学を継承・展開した。
20. ルドルフ・ヒルファースティング (Rudolf Hilferding): 19世紀後半～20世紀前半のオーストリア生まれのドイツの政治家、経済学者。マルクス経済学を継承・展開した。『金融資本論』の著者。
21. ローザ・ルクセンブルク (Rosa Luxemburg): 19世紀後半～20世紀前半のポーランド生まれのドイツの革命家、経済学者。マルクス経済学を継承・展開した。『資本蓄積論』の著者。
22. ウラジーミル・レーニン (Vladimir Lenin): 19世紀後半～20世紀前半のロシアの革命家、政治家。マルクス経済学を継承・展開した。『帝国主義論』の著者。
23. ウィリアム・スタンレー・ジェヴォンズ (William Stanley Jevons): 19世紀のイギリスの経済学者。新古典派経済学の創始者の一人。限界効用理論を発展させた。
24. レオン・ワルラス (Léon Walras): 19世紀のフランスの経済学者。新古典派経済学の創始者の一人。一般均衡理論を発展させた。
25. カール・メンガー (Carl Menger): 19世紀のオーストリアの経済学者。オーストリア学派の創始者。主観的価値論や限界効用理論を発展させた。
26. アルフレッド・マーシャル (Alfred Marshall): 19世紀～20世紀前半のイギリスの経済学者。新古典派経済学の重要な人物。『経済学原理』の著者。economicsという言葉を普及させた。
27. ヨーゼフ・シュンペーター (Joseph Schumpeter): 19世紀後半～20世紀中盤のオーストリア生まれのアメリカの経済学者。経済発展の理論やイノベーションの概念で知られる。
28. ライオネル・ロビンズ (Lionel Robbins): 20世紀のイギリスの経済学者。経済学を希少性の観点から定義した。
29. ジョン・メイナード・ケインズ (John Maynard Keynes): 20世紀のイギリスの経済学者。ケインズ経済学の創始者。『雇用・利子および貨幣の一般理論』の著者。マクロ経済学に大きな影響を与えた。
30. ジョン・ヒックス (John Hicks): 20世紀のイギリスの経済学者。ネオ・ケインジアン経済学の重要人物。IS-LM分析を開発した。
31. ポール・サミュエルソン (Paul Samuelson): 20世紀のアメリカの経済学者。ネオ・ケインジアン経済学の重要人物。多くの分野で貢献し、ノーベル経済学賞を受賞。新古典派総合を提唱した。

32. ロバート・ルーカス (Robert Lucas Jr.): 20世紀後半～21世紀のアメリカの経済学者。新しい古典派経済学の重要人物。合理的期待形成仮説やルーカス批判で知られる。ノーベル経済学賞を受賞。
33. エドワード・プレスコット (Edward Prescott): 20世紀後半～21世紀のアメリカの経済学者。新しい古典派経済学の重要人物。リアルビジネスサイクル理論などで知られる。ノーベル経済学賞を受賞。
34. グレゴリー・マンキュー (N. Gregory Mankiw): 20世紀後半～現在のアメリカの経済学者。ニュー・ケインジアン的重要人物。
35. デビッド・ローマー (David Romer): 20世紀後半～現在のアメリカの経済学者。ニュー・ケインジアン的重要人物。
36. ジョン・フォン・ノイマン (John von Neumann): 20世紀のハンガリー生まれのアメリカの数学者、物理学者。ゲーム理論の発展に貢献し、経済学にも影響を与えた。
37. ジョン・ナッシュ (John Nash): 20世紀のアメリカの数学者。ゲーム理論におけるナッシュ均衡の概念で知られる。ノーベル経済学賞を受賞。
38. デヴィッド・ゲール (David Gale): 20世紀のアメリカの数学者、経済学者。ゲーム理論やマーケット・デザインに貢献した。
39. スティーヴン・スメイル (Stephen Smale): 20世紀のアメリカの数学者。微分トポロジーや力学系で知られるが、経済学にも貢献した。
40. チャリング・クープマンズ (Tjalling Koopmans): 20世紀のオランダ生まれのアメリカの経済学者。計量経済学や最適成長論に貢献した。ノーベル経済学賞を受賞。
41. マイロン・ショールズ (Myron Scholes): 20世紀後半～現在のアメリカの経済学者。金融経済学の重要人物。ブラック・ショールズ・マーベリック・モデルで知られる。ノーベル経済学賞を受賞。
42. 宇沢弘文 (Hirofumi Uzawa): 20世紀後半～21世紀前半の日本の経済学者。経済成長理論や公共経済学に貢献した。
43. 二階堂副包 (Fukukane Nikaido): 20世紀後半の日本の経済学者。一般均衡理論に貢献した。
44. ダニエル・カーネマン (Daniel Kahneman): 20世紀後半～現在のアメリカ・イスラエル心理学者。行動経済学の創始者の一人。プロスペクト理論などで知られる。ノーベル経済学賞を受賞。
45. エイモス・トベルスキー (Amos Tversky): 20世紀のイスラエル心理学者。ダニエル・カーネマンの共同研究者。行動経済学の創始者の一人。
46. バーノン・スミス (Vernon L. Smith): 20世紀後半～現在のアメリカの経済学者。実験経済学の創始者。ノーベル経済学賞を受賞。
47. ゲーリー・ベッカー (Gary Becker): 20世紀後半～21世紀前半のアメリカの経済学者。人間の行動を経済学的なアプローチで分析した。ノーベル経済学賞を受賞。
48. ジョセフ・E・スティグリッツ (Joseph E. Stiglitz): 20世紀後半～現在のアメリカの経済学者。情報の非対称性や市場の失敗の研究で知られる。ノーベル経済学賞を受賞。経済学の定義についても言及。
49. ロジャー・マイヤーソン (Roger Myerson): 20世紀後半～現在のアメリカの経済学者。ゲーム理論の応用、特にメカニズム・デザイン理論で知られる。ノーベル経済学賞を受賞。経済学の定義についても言及。
50. ハジュン・チャン (Ha-Joon Chang): 20世紀後半～現在の韓国生まれのイギリスの経済学者。開発経済学、制度派経済学。経済学の定義についても言及。

以上が、提供されたソースに基づいた経済学の主要な出来事のタイムラインと主要な人物のキャストリストです。